

令和元年 11月 23日

## 2019年度 安否確認票掲出訓練 分析結果

防災対策実行委員会

### 1. 安否確認票掲出率

① 今回の訓練での安否確認票掲出率は約65%であり、2017年及び2018年に行った訓練の掲出率の約54%と比較し、11ポイント向上し、堅調な数字となった。

(添付資料-① 2019年度 安否確認票訓練結果 一覧表 No.1、2)

今回の堅調な数字の考え得る原因としては、①適当な時間での掲出要請  
②事前案内の配布等による訓練の周知徹底 ③直前の班長会での説明、  
などが挙げられる。

② 安否確認票訓練も今回で4回目となったので、各年及び各班の掲出率傾向分析を添付資料3、4に示した。

- 1) 年度別では訓練開始の2016年及び本2019年抜きんでているが、これは初年度故の関心の高さと前述の周知徹底が功を奏している。
- 2) 班内での数値が乱降下している一部の班があり、この訓練が班長の資質に由来している証左と考えられる。
- 3) 平均掲出率が80%以上を記録している7A、17班はいずれも長年居住している所帯が多く、これが影響していると考えられる。
- 4) 同様に各年度の掲出率のバラツキの少ない3B、17、20、21の各班も永年居住者が多いと思われる。

### 2. 掲出安否確認票の内容

① 「助けて」のカード掲出家庭は昨年の4所帯と同様の4所帯であり、「お願い」のカード掲出者も前年同様の1世帯であった。

### 3. 安否・安全確認結果 報告書

① 被害状況の記入班数は昨年の21班から、本年の18班と減少し、率としては75%から61%と大きく後退した。これは去年の記入例を記した案内文の配布が今年度は無かった為と推測される。

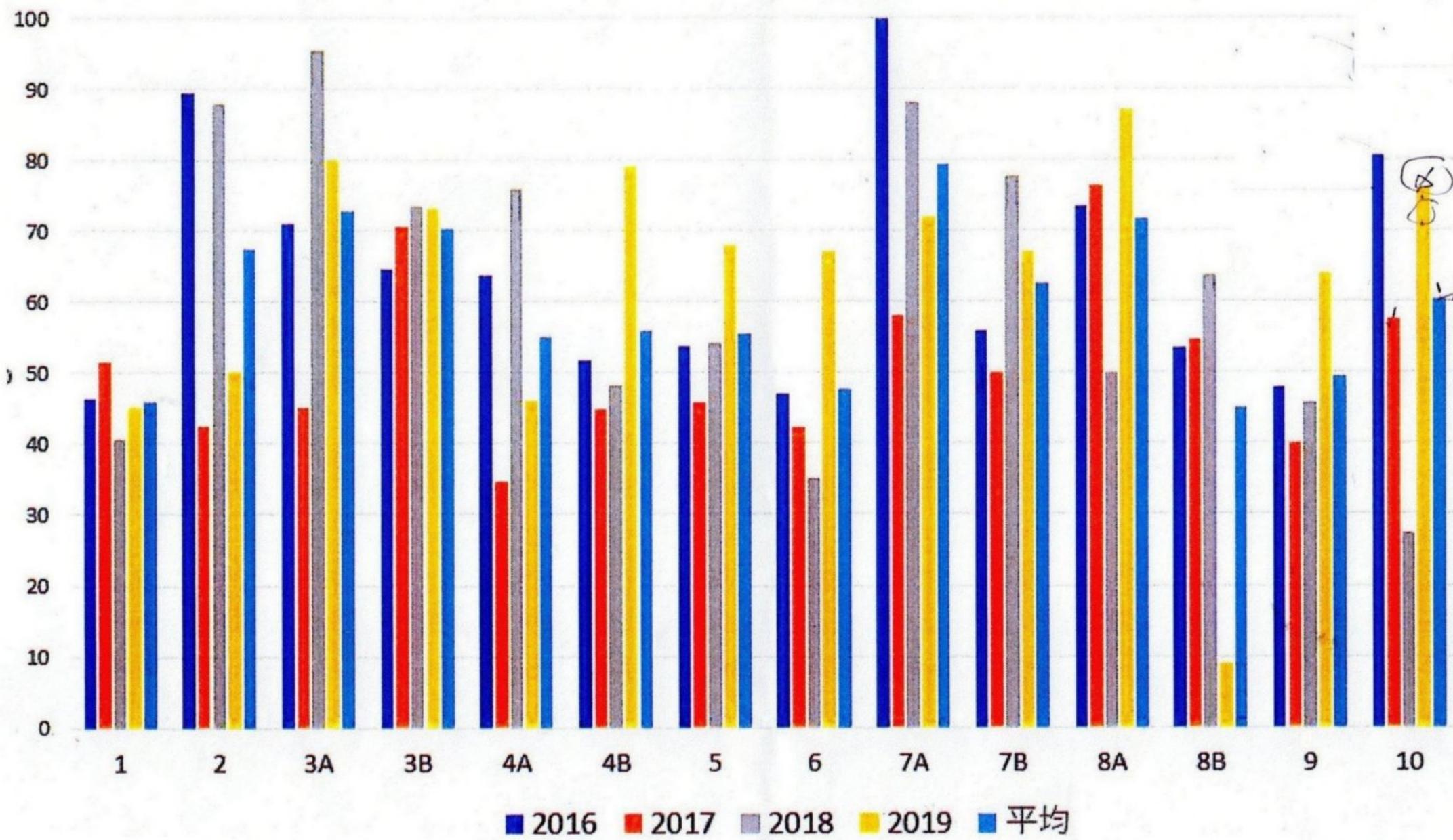
- ② 被害状況確認及び報告書への記入に要した1戸当たりの所要時間は昨年の60秒から52秒へと減少したが、52秒/1戸と言う時間は余りにも短く、信ぴょう性に欠けると言わざるを得ない。
- ④ 20班は22秒/1戸の短い確認時間で有り、信ぴょう性に疑義が生じる。同様の短時間での確認時間の班はその他にも4班も有る。

#### 4. 総括

- ① 事前の広報活動で掲出率は大幅に向上したが、反面、被害状況の報告は杜撰な一面がある。例を挙げると、所帯主欄空白なのに「被害なし」に印をつけたり(13例)、3枚ある発生状況報告書の最初の1枚だけを記入した班などがあり、この訓練が形骸化しつつあるように受け止められる。来年度は昨年度同様に被害の記入例を配布すべきと考える。
- ② 一方で、21班の報告書には台風の被害で発生したと思われる「屋根に軽微な損傷」と明瞭に記載されている。一所帯当たりの必要確認時間も100秒で突出していて、当該班長の真摯な態度を覗き知ることが出来る。拠って来年の広報に際しては「一世帯当たり60秒以上を目安……」と明記するのが有効策だと思える。
- ③ 事前の広報活動に際しては、「確実な確認が互助、共助になる」旨を強調し、あくまで訓練のための訓練であってはならない事を徹底すべきであろう。

以上

## 班別確認率



## 班別確認率

